

平成 25 年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」

共同利用型 成果報告書

巽 由樹子

【課題名】「近代ロシアにおける正教系定期刊行物と世論形成の関係についての研究」

【調査の趣旨】

本研究課題は、19 世紀後半のロシアで、正教ジャーナリズムが世論形成にどのような影響を与えたかを明らかにすることを目標としている。先行研究は当時の世論形成の様相を、主に世俗的ジャーナリズムから考察してきたが、「大改革」後には宗務院や神学アカデミーなどの公的な行政・教育機関、民間の修道会や宗教協会、聖職者身分出身の俗人ジャーナリストも多数の定期刊行物を刊行したからである。平成 25 年度はこうした研究課題の基礎的準備のために、北海道大学に所蔵されている関連文献・史料の調査を行った。

【調査の日程】

第 1 回：2013 年 6 月 1 日－6 日

第 2 回：2013 年 9 月 8 日－13 日

【成果】

6 月と 9 月の二度にわたり、中央図書館とスラブ研究センター図書室で、近代ロシアの宗教出版物に関する研究書や、正教会関連の定期刊行物のマイクロフィッシュを閲覧、複写した。また、正教系出版物だけでなく、北海道大学に所蔵されているロシア出版史の研究書・専門誌を、時間をかけて網羅的に調査することができた。こうした作業を進めるにあたり、研究員室に専用の机が用意され、インターネットやコピー機等の利用環境が整備されていたことは大変ありがたかった。北大の所蔵資料は多様な分野に及んでおり、自分の研究テーマが推移するに応じて、参照する必要のあるものが新しく現れる。学外の研究者のそうした調査活動を持続的にサポートしてくれる制度として、本助成は大変重要であり、今後も継続されるとありがたいと考えている。本助成に採用され、様々な支援を受けたことに心からお礼を申し上げたい。